

原書第1版の序文(1988)

この頭痛分類を作成するにあたり多くの苦労があったことが思い出される。作業は、約3年間続き、委員会の委員だけでなく、12の委員会の多くの委員が関与した。委員会や委員会での仕事は公表されており、会で討議された内容に興味がある方は入手することができる。1987年3月に、頭痛分類に関して、2日間の会合を開いた。1987年にフィレンツェで開催された第3回国際頭痛学会の最後に会合が公開され、頭痛分類の発表と討論がなされた。1988年2月20日と21日に、米国のサンディエゴで、最終的な公開の会合が委員会と聴衆との共同の作業で開催された。

あらゆる努力を傾けたにもかかわらず、いくつかの誤りは避けられなかった。この分類が使われるようになると、今まで気がつかなかったことが判明してくるであろうし、このような点に関しては次の版で訂正しなければならないであろう。多くの部分で、論文となったエビデンスがないままに、委員会の専門家の経験に基づいて分類が作成されたことを指摘しておく必要がある。しかし、このたび実践的(operational)な診断基準が発表されたことによって、数年後には疾患や疫学に関連する研究がいっそう増加していくことであろう。

われわれは、この分類が頭痛の研究に携わるすべての学者にまず活用されて、さらによりよいものとなっていくことを願う。どうか意見や批判を委員会の議長に送っていただきたい。第2版は1993年に公表する予定である。次の頭痛分類は新しいエビデンスをもとに改訂されることになるであろう。

国際頭痛学会は、頭痛の分類と診断基準の発刊が非常に重要なものになると考えている。今後さらなる評価や修正が必要になるであろうが、科学的な研究においては、すぐにもこの分類を使われることを推奨する。薬物臨床試験だけでなく、生化学的研究や生理学的研究の際にも適したものとなるであろう。

James W Lance
会長
国際頭痛学会(IHS)

Jes Olesen
委員長
頭痛分類委員会